

地域研究の基本文献（トルコ）

I. 事典、ハンドブック類

- ・『[新イスラム事典](#)』平凡社、2002年。
- ・『[イスラーム辞典](#)』岩波書店、2002年。
- ・『[イスラーム世界事典](#)』明石書店、2002年。
いずれも、気になる事項や人物について、概要を知るのに便利です。
- ・小杉泰・林佳世子・東長靖（編）『[イスラーム世界研究マニュアル](#)』名古屋大学出版会、2008年。
気になる事項や人物等について、関連文献や研究動向とともに知ることが出来ます。自分で勉強をはじめるときの出発点になるでしょう。
- ・三浦徹・黒木英充・東長靖（編）『[イスラーム研究ハンドブック](#)』（講座イスラーム世界、別巻）栄光教育文化研究所、1995年。
上記マニュアルと同じような役割をしてくれます。やや古くなりましたが、書かれていることは相変わらず役に立つと思います。
- ・大村幸弘・永田雄三・内藤正典（編著）『[トルコを知るための53章](#)』明石書店、2012年。
長年トルコと関わってきた代表的研究者による編著ですから、有益であるにちがいありません（紹介者未読）。

II. 歴史的背景を把握するために

- ・林佳世子『[オスマン帝国 500年の平和](#)』（興亡の世界史 10）講談社、2008年。
- ・同『[オスマン帝国の時代](#)』（世界史リブレット 19）山川出版社、1997年。
- ・鈴木董『[オスマン帝国――イスラム世界の「柔らかい専制」](#)』（現代新書 1097）講談社、1992年。
- ・永田雄三・羽田正『[成熟のイスラーム社会](#)』（世界の歴史 15）中央公論社、1998年。
- ・永田雄三（編）『[西アジア史II](#)』（新版世界各国史 9）山川出版社、2002年。
- ・新井政美『[オスマンvs.ヨーロッパ――〈トルコの脅威〉とは何だったのか――](#)』（選書メチエ 237）講談社、2002年。
いずれも、オスマン帝国の様々な側面について、興味深い知識をえることができる、通史、ないし概説書です。

III. オスマン崩壊から共和国成立期について知るために

- ・鈴木董『[オスマン帝国の解体——文化世界と国民国家——](#)』（ちくま新書）筑摩書房、2000年。
- ・新井政美『[トルコ近現代史——イスラム国家から国民国家へ——](#)』みすず書房、2001年。
- ・同『[オスマン帝国はなぜ崩壊したのか](#)』青土社、2009年。
迂遠なようですが、ここを押さえておかないと、現代トルコを誤解する危険があると思います。

IV. 現代トルコの様々な局面について知るために

- ・松原正毅『[遊牧の世界——トルコ系遊牧民ユルックの民族誌から——](#)』中央公論社、1983年（[平凡社ライブラリー](#)、2004年）。
- ・同『[トルコの人びと——語り継ぐ歴史のなかで——](#)』（NHKブックス 564）日本放送出版協会、1988年。
政府の定住化政策によって姿を消そうとする遊牧民に関する、1970年代末に行なわれた貴重な調査の報告、およびそうした調査の結果明らかにすることができた、庶民の目から見た共和国成立史です。
- ・M. マカル、尾高晋己・勝田茂訳『[トルコの村から——マフムト先生のルポ——](#)』社会思想社、1981年。
都市中心に進められた共和国の近代化政策の中で、農村がどのような状況におかれていたかを明らかにし、1950年の発表当時、大きな衝撃を与えた報告の邦訳です。
- ・中山紀子『[イスラームの性と俗——トルコ農村女性の民族誌——](#)』アカデミア出版、1999年。
時代はずっと現代に近づきますが、日本の人類学者によって行なわれた調査に基づく、黒海沿岸農村の民族誌です。
- ・内藤正典『[アッラーのヨーロッパ——移民とイスラム復興——](#)』東京大学出版会、1996年。
- ・野中恵子『[ゾーリンゲンの悲劇——トルコ人労働者移民放火殺人——](#)』三一書房、1996年。
二冊とも、ヨーロッパのトルコ人移民に関する書物です。
- ・内藤正典『[ヨーロッパとイスラーム——共生は可能か](#)』（岩波新書赤 905）岩波書店、2004年。
- ・内藤正典・阪口正二郎（編著）『[神の法vs.人の法](#)』日本評論社、2007年。
二冊とも、スカーフ問題に典型的に現われる、ヨーロッパにおけるムスリムの問題を、ヨーロッパの問題としてとらえ直す、重要な論著です。トルコのスカーフ問題に関する論文も含まれています。

- 松谷浩尚『[現代トルコの政治と外交](#)』勁草書房、1987年。
- 同『[現代トルコの経済と産業——トルコ財閥の研究——](#)』中東調査会、1989年。
外交官として長くトルコと関わってきた著者による書物で、表題に関する概括的な知識をえることができます。
- 澤江史子『[現代トルコの民主政治とイスラーム](#)』ナカニシヤ出版、2005年。
- 新井政美（編著）『[イスラームと近代化——共和国トルコの苦闘——](#)』（選書メチエ 541）講談社、2013年。
二冊とも、共和国期におけるイスラム政党とイスラム派知識人に関する包括的な研究です。
- 中川喜与志『[クルド人とクルディスタン——拒絶される民族——](#)』南方新社、2001年。
- 小島剛一『[トルコのもう一つの顔](#)』（中公新書 1009）中央公論社、1991年。
二冊とも、トルコにおける少数民族の問題を扱った、よく知られた著作ですが、現状はその後ずいぶん変動していると思います。

(2013年9月11日、新井政美)